

財務常任委員会協議会

- 1 日 時 令和元年9月24日(火)
午後1時10分～午後1時46分
- 2 場 所 第2・第3委員会室
- 3 出席委員 (委員長) 鬼頭博和 (副委員長) 宮川隆
(委員) 片岡健一郎、谷平敬子、黒川武、大野慎治、水野忠三、
須藤智子、井上真砂美、伊藤隆信、関戸郁文、堀 巖、
木村冬樹、榎谷規子
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席者 梅村 均 議長
- 6 事務局出席者 議会事務局統括主査 寺澤頭
- 7 委員長あいさつ
- 8 協議事項

(1) 新年度予算に向けた提言について

鬼頭委員長：今後のスケジュールについて、資料に基づき説明。10月上旬に改善課題を抽出したい。意見はあるか。

木村委員：市長を含め執行機関がこの手法をよしとしていないが、このやり方で良いのか、議論をしておいた方がいいと思う。事前に執行機関との調整も必要ではないか。

鬼頭委員長：とりあえず皆さんの意見を集めた段階で、と考えていた。

黒川委員：議長から各常任委員会へ諮問されているが、諮問に基づいてやるならば、スケジュール(5)の取扱いが少し違ってきているが、どうか。

鬼頭委員長：案なので、これにとられることなく意見をいただきベストなかたちにしたい。

大野委員：まず課題のある事業を3件ほど抽出し、それに対して評価することはできるが、議員各々が提出してもまとまらない恐れがある。

宮川副委員長：本来は議長からの諮問という形であるが、議長から委員長に口頭で課題提出の打診があったと聞いている。一昨年から取り組んでいることでもある。大野委員の意見に対しては、委員の傾向としては提案されたことに関して真っ向から反対ということはなかった。たたき台として、まずはここで課題を抽出して、その中から優先順位が高いものを皆で話し合っ決めていくというのも一つの方法である。

黒川委員：議長の意見を伺いたい。

梅村議長：総務、厚生には要望として政策提言の諮問をしている。財務常任委員会へは同様の諮問はしていない。委員長中心でやってもらえればと思う。12

月議会での合意ができれば、インパクトが強いと思うのだが、難しいなら他の委員会と同様、議長へ戻してもらってもよい。論点が幾つか出たが、前回は会議録から正副議長が課題をピックアップしたが、今回は各委員から抽出し、皆で話し合って課題を決定していくという提案と考える。執行機関との関係については、まとめ方を、やってください、という書き方ではなく、執行機関に考えさせる表現にとどめればよいのでは。予算を付けてほしいということになれば前もって執行機関との調整が必要である。

大野委員：事業名と課題のみ挙げ、提言については皆で考えるということで良いか。

梅村議長：皆さんが考えを持っていれば踏み込んでも良いが、そうでなければ評価としてまとめればよいのでは。

黒川委員：既存の事業の評価のみで考えるのか。新しい提案については。

鬼頭委員：事業評価についてのシートとして作った。新しい提言に関してのシートではない。

黒川委員：既存の施策・事業のみではなく、将来にわたって必要であると考えられるならば、それらについても出すべきだ。

堀委員：新しい事業となると、財務委員会でやるべきか疑問である。総務や厚生が行政視察をし、新たな提言もしている。財務では去年からの引継ぎで事務事業評価をして提言をするということであるが、決算議会で各議員が質疑するのは問題意識を持っているということなので、そこから各々が提案するのも良いが、客観的にとなると正副委員長の役割が大きい。

大野委員：決算議会が終わると施策評価に係るシートが提出される。それを受けて実施するならわかるが、いきなりシートに書き出すとまとまらない気もする。1年目議員のことも考えると、施策評価シートを見てからが良いのでは。

宮川副委員長：次年度予算についてなら12月議会で提案しないと間に合わない。そうではなく、予算そのものの組み方を提案するとなると、12月議会ではなく3月議会にむけて余裕を持って話し合うことも可能である。最近の各議員の一般質問の傾向として、提案型が主である。提案に対して議会がどのようなスタンスで臨むのかによって、タイミングも内容も変わってくるため、基本となることを定める必要がある。

鬼頭委員長：これは新年度予算に反映させるべきという考えのもとで作成した。しかし、もう少し長いスパンでと考えるという提案があったが、どのような方向性で進めていくか。

黒川委員：決算審査の過程の中で、ある事業に対して課題があると考えられるならば、あるいは深化させるべきと考えるなら、最初を出してもらえばいいと考える。そこから総務、厚生に振り分けることも可能。全体で考えるのはこの場しかない

いので、施策事業の改善策等を取りあえず出していくことが大切と考える。

水野委員：新年度予算に反映するならば、執行機関側の内部での検討も必要と思われるので、ここを出してすぐ反映させるのは難しいのではないか。次年度予算に限らず、熟考するのも良いかと考えるがどうか。

宮川副委員長：例えば、健幸都市宣言が思った以上に浸透していないのであれば予算付けてパンフレットを作成するなど、単年度予算の予備費で対応可能な提案もある。しかし数百万、数千万の予算を伴う、任期4年の長いスパンで考えるべきものがあれば、あまり固定しなくてもよいと考える。

大野委員：補正予算も含めた新年度予算を考えて議論すれば良いのでは。12月定例会に出しても、当局の検討期間を考えると、当初予算ではなく補正になるだろう。まずは次回開催日を決めていただきたい。

鬼頭委員長：まずはシートを出すことについては了承していただけるか。

宮川副委員長：もともと12月定例会に提出することを前提に考えて、スケジュールを逆算するつもりでいたので、補正予算も有りということならば、その前提に基づいた委員会運営をしたい。まずは委員会の日程を先に決めたいと思う。

鬼頭委員長：次回10月11日午前10時から。開催前にデータもしくは紙にてシートを提出、10月4日午後4時締切。

(2) その他

特になし。